

私にとっての「戦後七十年」

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

今年一番大きなテーマは「戦後70年」ではないでしょうか。政府による談話については世界中が注目しているようです。私個人としては、あまり波風を立てるような談話にならないよう願っています。さて、私にとっての戦後、それは人生の軌跡と考えています。

昭和15年8月25日に生まれた私は、20年8月15日は満5歳でした。3月10日の東京大空襲を体験し、父の生家がある長野

県赤穂（現駒ヶ根市）へ疎開しました。母とその父、そして私の3人でした。東京の家には母の母と姉が残りました。

❖ ポツダム宣言受諾・終戦 ❖

8月15日は快晴でした。酒屋を営んでいた父の兄を初め家族が皆広間で正座して、玉音放送を聴きました。その意味はまったくわかりませんでした。静寂がしばらく続いていたことはよ〜く覚えています。

21年春、私を幼稚園へ入れるため帰京しました。板橋区（現練馬区）にあった東京の家は、幸いなことに被災せず残っていました。しばらくは焼け出されたり、満州から引き上げてきた母の兄弟が避難していました。大家族で賑やかでした。

❖ 新憲法が施行 ❖

22年4月、小学校へ入学。同年5月3日に新憲法が発効しました。教育制度も変わりました。国民学校は小学校に、男女共学、義務教

育は「小6・中3」の9年間になりました。PTAもできました。学校給食では母も手伝いに度々出向きました。

終戦後2年たって新生日本が歩み始めたころの小学生生活でした。私が通学した学校は国立大学の付属でしたからGHQの指導が強く、「民主主義と自由と権利」についてはかなりしつこく教えられたような気がします。それだけにこのたびのフランスにおける「表現の自由」をきっかけとしたテロ事件は考えさせられます。フランス革命で「自由・平等・友愛（博愛）」を勝ち取った人民にとっては大切な「自由」ですが、自由の範囲には「理性」が必要なのではないでしょうか。とって暴力で否定することは、たとえ宗教の違いがあっても許されることではありません。

❖ 講和条約締結 ❖

昭和26年9月のある日、全校生徒が講堂に集められました。校長先生より「今日から日本は再び独立国として認められた」と説明がありました。「これからは日の丸の掲揚も君が代の斉唱もできる」ともいわれた記憶があります。

後で知ったことですが、講和条約は52カ国が参加しました。そのうちのセイロン（現スリランカ）のジャヤワルデネ代表（後の大統領）の演説に感銘しました。「憎悪は憎悪によって取り除かれない。愛によってこそ取り除かれる」と述べ、賠償を求めないで「日本には友情の手を差し伸べる」と述べてくれました。

❖ 国際連合に加盟 ❖

昭和31年12月18日日本は80番目の国として、国連に加盟が認められました。同年10月に日ソ共同宣言が発行した結果、ソ連も加盟に賛成したからです。これで日本も一人前になったと感慨深い思いをしました。

この年、私は高校1年。終戦後ソ連に抑留されていた父が帰国しました。戦後10年経って突然オヤジが天から降ってきたような思いがしました。加えて翌年5月には母が亡くなりました。人生最大の悲しい経験でした。それ以来、勉強を放棄してしまいました。成績が悪くても周囲が同情してくれるのをいいことにして…いささか反省していますが。

国連加盟国は現在、193カ国あるそうです。世界にはそんなにたくさん国があるのかといささか驚きです。第2次世界大戦の戦勝国が「常任理事国」とやらで、権力を握っているようですが、拠出金はアメリカに次いで日本は第2位です。平和のためなら致し方ないと思うしかないのでしょうか。国連はニューヨークの国連ビルのように疲労しているのでは。

❖ 東京オリンピック開催 ❖

昭和39年10月10日前夜の雨が嘘のように快晴で迎えたオリンピックは、戦後の日本と決別するイベントでした。当時原宿でアルバイトをしていましたが、真上の空に自衛隊機が五輪マークを描くのをビルの屋上から見ました。感動しました。

私は二浪していましたので翌40年に就職することになっていました。戦後の経済復興は右肩上がりということで、オリンピック景気はその頂点だといわれていました。40年はその反動で不況でした。就職先は内定していましたが、「不況で採用取消」などという記事が乱れ飛んでいましたので、一応心配しましたが無事採用され、社会人になりました。

5年後に2度目の東京オリンピックが開催されます。半世紀ぶりです。前回のときは「オリンピック成功」が錦の御旗で東京の開発が進みましたが、今回は控えめにするようですか

ら、国威発揚とはならないでしょう。古代オリンピックは「全ての戦いを休止してスポーツと芸術に勤しむ」という精神を見直す雰囲気が出ればいいのですが。オリンピックを国威発揚に利用したのはヒトラーです。あくまでも「平和の祭典」に戻すよう期待します。

❖ 石油ショック ❖

その発端は第4次中東戦争です。昭和48年と54年の2度も起きました。あと40年で石油は枯渇するなど脅かされました。戦後アメリカの政策でエネルギーを石炭から石油に転換させられていた日本は、七転八倒の苦しみを味わったのです。しかし結果的には、国民の「省エネ」志向が強まり、公害も減少するといういい結果も得ることができました。更に、当時は輸出絶好調で米ドルが溢れていましたが、石油ショックでドルがアメリカに還流し、文句を言われなくなったというオマケがつきました。ひょっとすると、石油ショックはドルを垂れ流したアメリカが仕組んだことではないか？と思っています。

地球温暖化による「異常気候」を放置して、世界は宗教や民族間の争いごとにかまけています。一方ではシェールオイルやガスが開発され、かつての「石油枯渇」の脅しが消えてしまいました。アメリカなどは大型自動車の人気復活して来ました。石油ショックから40年、その貴重な体験から得た教訓を忘れてしまったのでしょうか。

戦後70年を経て、歴史や経験から学んだ尊い知恵を生かさなければ、先人たちの苦労は報われません。これから数々の経験を語り合い、「次の世代を担う人たち」に語り継ぐのが私たちの役目だと考える今日この頃です。